

# 山口県における CKD医療連携の現況

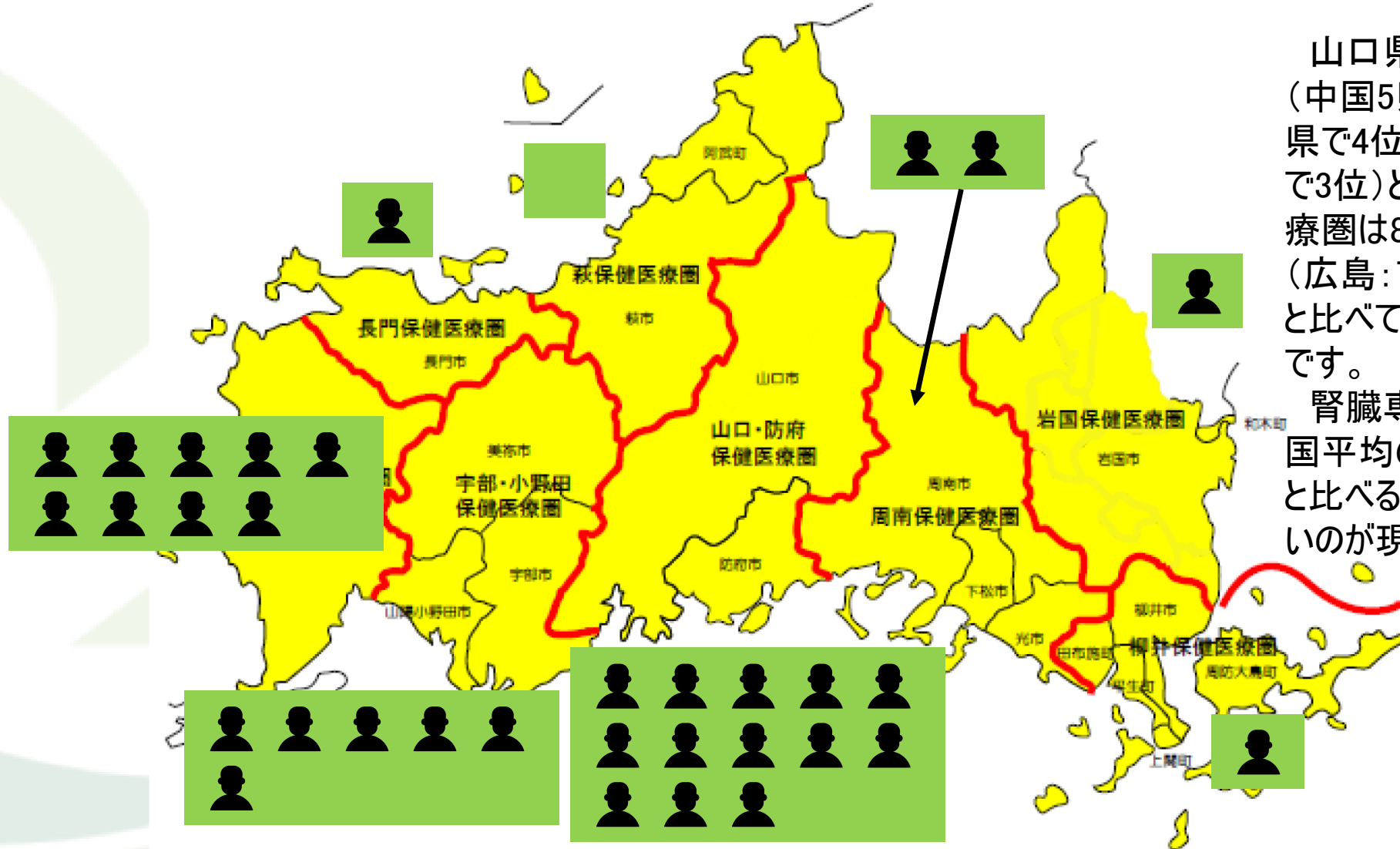
山口県 代表  
同 地区幹事

澁谷 正樹  
新田 豊



2022年12月版

## 二次医療圏ごとの腎臓専門医数



山口県は人口131万人で全国27位（中国5県で3位）、面積は23位（中国5県で4位）、人口密度は28位（中国5県で3位）と平均的なレベルです。二次医療圏は8つあり、他の中国地方の4県（広島：7、岡山：5、島根：7、鳥取：3）と比べても多く、分散しているのが特徴です。

腎臓専門医は33人と対人口比で全国平均の半分程度です。瀬戸内海側と比べると日本海側や県東部では厳しいのが現状です。

## 行政との取り組み

- 県、国保連合会と特定健診を利用した受診勧奨、保健指導に関して協議を行いましたが、予算の裏付けがないため独自の計画策定は困難です。既にある研修などのテーマのひとつとしてCKDを扱ってもらうところからスタートする予定です。
- 腎友会主催の県民公開講座に協賛してもらっています。
- 宇部市では特定健診のうち、市が集団健診として実施したものに個別に受診勧奨を開始します。減塩キャンペーンに相乗りして住民の集まりやイベントなどでのチラシやパネルでの啓発にCKDについても掲載してもらう計画が進んでいます。

## 医師会との取り組み

- 山口県糖尿病対策推進委員会（糖尿病性腎症重症化予防プログラム）に参加を目指していますが調整が難航しています。
- 各郡市医師会レベルでも糖尿病性腎症重症化予防プログラムを用いたスキームを考えていますが、県レベルでの方向性が定まった後のことになります。
- 県内各地でCKDおよびCKDの診療連携に関する講演会を実施しています。
- かかりつけ医との診療連携については医療圏が分散している代わりに拠点病院が明確であるため紹介・逆紹介についてはスムーズに行えています。効率的な併診、地域連携パスの作成が今後の課題です。

## 泌尿器科との取り組み

- 県内では腎臓内科のいないエリアもあり、CKD患者の紹介先が医療圏の中核病院の泌尿器科となるケースも少なくありません。CKDのすべてのステージで泌尿器科との連携は重要です。
- かかりつけ医から腎臓専門医への紹介基準を泌尿器科とも協議して連名で作成しています。
- 中核病院の泌尿器科に紹介となったCKD患者の対応、近隣エリアの腎臓内科についてマニュアルを作成する予定です。
- 泌尿器科と合同で診療連携や腎代替療法をテーマとした講演会を行っています。